

JAMSTEC 甲殻類標本の利用が広がる（かもしれない） あなたの研究フィールド

Utilizing JAMSTEC crustacean samples may extend your study field

○細野隆史・一柳麻里香・伊勢戸徹・佐藤孝子・佐々木朋樹・華房康憲・土田真二（海洋研究開発機構）・齋藤暢之（マリンワークジャパン）

Takashi Hosono, Marika Ichiyangi, Tohru Iseto, Takako Sato, Tomoki Sasaki, Yasunori Hanafusa, Shinji Tsuchida¹ & Nobuyuki Saito²

¹Japan Agency for Marine-Earth Science and Technology, ²Marine Works Japan

海洋研究開発機構（JAMSTEC）では、航海で得られたデータ・サンプルを人類の共有財産とみなし、広く一般での利用を促進している。航海から2年経過し、当初の課題が達成された生物標本についても Web 上で標本の詳細情報を公開し、採集者以外の研究者が標本を利用できる仕組みを提供している。現在 JAMSTEC が提供可能な生物標本は 35,145 点あり、このうち甲殻類の標本数は 4,976 点である。これらにはアクセスの機会が限られる深海で得られた標本も多く含まれている。本発表では JAMSTEC が提供可能な甲殻類標本の概要を報告し、それらを利用するための具体的な申請方法について紹介する予定である。

2015年9月現在、提供可能な甲殻類標本には20目が確認されており、そのうち最も多くを占めているのは十脚目の2,684点で、次いで、端脚目の850点、無柄目の285点がある。標本が様々な目にまたがって得られている一方で、種レベルまで同定が進んでいる標本は1,742点であり、残りの3,234点は属以上の分類階級にとどまっている。同定が進んでいる代表的な分類群の例として、ユノハナガニ科では全355点の標本から2属5種340点で種同定がなされている。また、オハラエビ科では全607点の標本から7属10種396点で種同定がなされている。JAMSTEC の特性上、深海を中心に出現する分類群の標本は同定が進む傾向にあるが、残りの3,234点の標本は分類学的に“やりがいのある”標本として利用者の出現を待っている。

JAMSTEC の生物標本の提供は分類学的目的に限定するものではない。過去の事例としては、遺伝子解析、共生生物の研究、あるいは、教育目的での展示など多岐にわたる。一般に、研究計画は自身の興味に加えて、研究素材へのアクセスが実現可能であるのかも考慮して組み立てられるだろう。しかし、研究組み立て時の研究素材候補として

JAMSTEC の生物標本群は含まれていただろうか？
利用可能な標本の詳細情報が簡単に閲覧できるデータベース

(<http://www.godac.jamstec.go.jp/bio-sample/>) へのアクセスは、これまで実施してきた研究材料との比較研究、あるいは深海生物に代表される JAMSTEC 生物標本そのものを対象とした研究など、新しい研究を始めるための可能性を提供する（かもしれない）。

